

## 序 文

本論文は、1993年9月に名城大学に提出した博士学位請求論文に若干の加筆修正を施したものである。この論文は、私にとって、刑事法学研究に対する新たな旅路の門出であって、「学問に終わりなし」の例えの如く、終着駅とするつもりはない。ここに、刑事法学研究に対する私の新たな挑戦が始まるものとの感を深くするものである。

本論文を第一経大論集の別冊として公刊することができたことは、私の指導教授である名城大学の西山富夫先生はじめ現大学の都築泰壽学長、中牟田茂雄経済学部長、同僚諸先生方の種々のご尽力の賜である。その学恩に報いるためにも今後なお一層研鑽を積みたいと思う。

本論文の校正にあたっては香蘭女子短期大学の吉村信明氏はじめ本学教職員及び増田法子君の協力を頂いた。ここに深く感謝の意を表するものである。

平成5年12月1日

金子正昭